

令和6年度 県立 I T 未来高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 情報活用能力や社会の諸問題を分析・解決できる能力を培うことをとおして、デジタル社会を支える I T 人財を育成する学校 (2) 生徒一人ひとりの多様な価値観や学習形態へのニーズに対応し、興味・関心に応じた進路を実現する学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○正しく物事を判断し、相手の立場を理解した上で、自分の考えや意見を伝えられる人 ○高い専門性を有し、ねばり強く価値あることの実現に向けて、チャレンジする人 ○社会の課題に関心を持ち、その解決に向けて地域社会へ積極的に参画し、貢献する人	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○教科教育の充実による I T 人財として必要な知識と技術の修得 ○キャリア教育の充実による I T 人財として生きていく力の伸長 ○外部機関との連携による最新技術等の知識の習得 ○身につけた I T スキルを活かした地域貢献の推進	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	○コンプライアンス（法令遵守・社会規範・倫理観）を尊重しようとする生徒 ○情報に関する学びに興味・関心があり、継続して課題に取り組もうとする生徒 ○互いのよさを認め合い、協働してよりよい社会の実現に努めようとする生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
生徒の実態を把握して個に応じた学習指導を実践することができた。今後は、生徒の思考力・判断力・表現力の向上のために、生徒同士が自分の考えを伝え合う機会を増やしたり、自分の考えを表現しやすくなる手だてを工夫したりするなど、意図的に設けた協同的な学習を促進する必要がある。 地域や関係機関と連携し外部講師を招聘しての専門家による講座や講話を実施することができた。今年度も、各教科の知識・理解を深めるためにも、継続して関係機関等と連携して多くの講座や講話を開催する必要がある。 新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症になったことにより、充実した学校行事を実施することができた。今後は、生徒会や各専門委員会などを主体とし、より生徒主導で計画・実施ができるように準備を進める必要がある。	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた不断なる授業改善	① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、ICT を効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点からの授業改善を推進する。 ② 教育目標の実現のために、生徒が身に付けるべき力を「4 + 1 の力」に整理し、全ての教科が連携して、これらの力の育成に取り組む。 ③ 全ての教科において、生徒自身が設定した課題の解決策を探ることを重視し、生徒が「答えを出す学び」から、生徒が「問い続ける学び」への転換を目指す。 ④ 先端的教育ソフトウェアや e ラーニングを活用した自律的な学習活動を推奨するとともに、課外授業等も併用し、学校全体で学習習慣の定着を図る。 ⑤ 卒業年次における課題研究を核とした探究的プロジェクト学習の実現に向けて、1 年次から探究活動を充実させるとともに、外部人材等を積極的に活用し、内容の深化を図る。 ⑥ 生徒の授業評価における「授業満足度」の平均値 3.5 以上を目指す。	B

講演などの実施によりキャリア教育の充実を図った。今後は、キャリアパスポートの活用や生徒の進路意識を高める取組を充実させる必要がある。 生徒が安心・安全な学校生活が送れるよう配慮することができた。今後も、充実した学校生活が送れるように、継続して生徒及び教員が生活しやすい環境整備を進める必要がある。		探究的プロジェクト学習を軸としたキャリア教育の充実	⑦ 生徒が「切り拓け未来」プロジェクト及び進路関係行事等に積極的に取り組み、キャリアパスポートで振り返ることを基本とし、卒業後の進路を見通したキャリア教育全体計画を構築する。 ⑧ 外部機関との連携や積極的な地域貢献を推進し、生徒それぞれの進路実現に必要な知識・技能を習得させるとともに、主体的に進路決定に向き合う態度を育成する。	B	
		豊かな心の育成	⑨ 「公共」及び特別活動を軸として、学校の教育活動全体で道徳教育に取り組むとともに、生徒の基本的な生活習慣を確立し、公共心・公德心を育成する。 ⑩ 特別活動及び課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成し、生徒主体の学校づくりを推進する。 ⑪ いじめの未然防止、早期発見、早期解消を図り、安心・安全な学校生活を確立する。	B	
		教職員の超過勤務時間の縮減	⑫ 業務の精選と分担の見直しを不断に行うことにより、残業月 45 時間以内、年 360 時間以内を達成する。	A	
		広報の充実	⑬ 学校Webサイトを充実させ、保護者や地域の方々に本校の教育活動を積極的に発信するとともに、SNS 等も活用し、中学生を対象とした広報を充実させる。	C	
		教育環境の改善	⑭ 令和6年度高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校DX加速化推進事業）を活用し、情報関係の環境整備の充実を図る。 ⑮ 学校が抱える諸課題に対して、PTA との連携を強化し、地域の力を最大限に活用して解決に取り組む。	A	
		評価項目	具体的目標	具体的方策	
教科指導	「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る	生徒一人ひとりの学習状況を把握し、適切な指導助言を行うことで学習意欲を促すとともに、「個別最適な学び」を実践する。 ①		B	B 年々「個別最適な学び」、「協働的な学び」の充実度が高まり、生徒の実態を踏まえた学習指導体制が確立されている。今後はソフトウェア等の機能を十分活用して、思考力・判断力・表現力がより深まる教科指導を実施していきたい。
		生徒同士の話し合いや考えを発表するなどの「協働的な学び」を実践する場面を設定し、考えを広げ深まる授業を実践する。 ①②③		B	
	学習習慣の定着を図る。	先端的教育ソフトウェアやeラーニング等の活用により、自発的な学習活動を促進するとともに『4（論理力、プログラミング力、情報活用力、英語力）＋1（プレゼンテーション力）の力』の育成を図る。④		C	
	生徒の授業に対する満足度を高める。	生徒の授業評価における「授業満足度」の平均値3.5以上を達成する。⑥		B	

教科	国語	言葉に対する感覚を養い、基本的な言語能力及び基礎学力の向上を図る。	他者と協働しながら情報を整理し、表現することで論理的思考力を深める。①② リーディングスキルテストやスタディーサポート等を通じて、個々の国語力を把握し、基礎学力の向上につながるよう、授業の工夫や改善を図る。①②④	A	A	ICTを活用し、協働的な学びを行うことができた。今後も生徒の意欲を引き出しながら、主体性と論理的思考力の向上を図っていきたい。
		予習・復習の徹底及び課題等を通して、学習習慣を確立する。	ICTやアプリを効果的に活用し予習・復習を徹底することで、言葉による見方、考え方を働かせ、効果的に表現する資質・能力を育成する。④	A		
	地歴 公民	基礎学力の定着と向上を図る。	ワークノートやプリントを通して重要事項の要点を整理し、基礎的理解と定着を図る。①	A	A	レポートやプレゼン大会の実施、外部講師の招聘や、議会の傍聴など、多様な学びの機会を提供することができた。また中学校の復習から共通テストの演習まで幅広い内容の定着も図ることが出来た。
			小テストやスタディーサポート等を通じて生徒一人一人の学力を把握し、個々に応じた指導ができるようにする。①④	A		
		現代社会への関心を持たせるとともに、積極的に現代の諸課題に取り組むことができるよう、授業の改善に努める。	ICTを活用し、日常生活との関連を踏まえながら生徒が課題学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。③④	A		
			言語活動を充実させるため、時事問題を取り上げ、最新の問題についての興味関心を引き出す。①②	A		
			目まぐるしく変化する世界情勢への関心を深めるよう努め、諸課題の解決方法に取り組む意欲関心を高める。①②	A		
	数学	基礎的知識及び技能、進んで学習に取り組む意欲の定着を図る。	生徒一人一人の学習に対する意識や学力を把握し、個々に応じた指導をする。①②	A	A	生徒の習熟度の差を考慮し、難易度の幅の広いプリントを準備し、常に問題に取り組める環境を設定した。また、学習アプリ（tokuMo）等を活用した個別最適化学習も実施している。今後は、主体的・対話的な学習活動を取り入れる機会を今後増やしていきたい。
			ICTの機能を生かした学習指導の工夫により、生徒にとってわかりやすい授業を実施して学習意欲を高めさせる。①②③	A		
			適切な課題を与えて提出をさせることで、自学学習の習慣化を図る。①②③	A		
		数学的なものの見方、思考力などを養成する。	数学的な見方や考え方の良さが実感できるよう、教材や問題の精選と授業の進め方についての工夫・改善を図る。①②	A		
			主体的・対話的な学習活動を通して、論理的に思考して判断し、考えを表現する能力を育てる。①②③	A		
			各種研修会や公開授業などへ積極的に参加して自己研鑽に努め、基本的な内容だけでなく高いレベルの学力も身につけることができる授業の実施に努める。①②	B		
	理科	学習意欲の向上と学習習慣の確立を土台とした学力の向上を図る。	提出物や教科面談を通して生徒一人一人の学習に対する意識や学力を把握し、個別最適な指導をする。①②	B	A	情報科・数学科と関連付けることで、学習意欲、理科的思考力の向上を図ることができた。一方、主体的・対話的な学びに関しては不足しているため、これらを向上させる活動を増やしていきたい。
			適切な課題を与えることで、自律した学習態度の育成を図る。①②④	B		
		理科的思考力の向上を図る。	情報科や数学科の内容にも触れながら授業展開することで、深い科学的思考力の向上に努める。①②③	A		
			授業毎に実施する予想をする問題の取り組みを通して、論理的に思考して判断し、考えを表現する能力を育てる。①②	A		

教科			ICT を効果的に活用することにより、わかりやすい授業を実施することで理科的思考力を向上させる。④	A		
	保健 体育	運動の合理的、計画的な実践を通して運動に関する知識を深め、かつ、技能向上をめざし、楽しさや喜びを味わえるようにし、体力向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画・健康・安全などに対する意欲を高める。	様々な運動を学習することによって運動・スポーツに対する知識を深め、生涯を通じて運動・スポーツに親しむ資質や能力を育てられるようにする。また、それぞれの運動・スポーツの特性を理解し、楽しさや喜びを味わえるようにする。①②	A	A	目標は達成できたが、更に体力テストのD+E割合を減少出来るよう、授業内の運動量の確保に努めていきたい。実技でのICT活用方法についても、より効果的に出来るよう検討していきたい。
			ICT を活用し、様々な運動やスポーツの学習から健康や安全を主体的かつ客観的に管理し、自己の能力に応じた技能・体力を高められるような資質や能力を育てられるようにする。④	B		
			健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとし、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことができるようにする。①②	A		
			健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視し、思考力・判断力・表現力を育成することができるようにする。①②	A		
	芸術		令和6年度開講なし			
	外国 語	ICT を活用して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を身につける。	ICT やアプリ等を活用して、生徒が自分自身で学習を調整できるように、自立した個別最適型学習を確立させる。①②	A	B	・反転学習を前提としているため、年間を通して予習提出率が9割を超えることを目標としたい。 ・特に大学進学希望の生徒に、スタディサポートなどの外部試験等のデータを活用させ、さらに自身の学習を調整する力を身につけさせる。 ・ただ英語を勉強するのではなく、自分の進路等、目的意識をもった英語学習の意識付けをしていきたい。
			外部試験やスタディサポートの活用によって、基礎力の向上を図る。④	C		
			ICT やアプリ等を活用し、授業内外で4技能すべての学習を自主的に行えるようにし、授業内で生徒が自己表現する活動を心がける。④	A		
		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を身につける。	外国語の授業等を通して、実践的な英語を身につけさせ、ペアワークやグループワークの方法を工夫する。①②③	A		
			自分自身のことや社会的な話題について、英語を通じて話したり書いたりできるよう、スモールステップでの指導を行う。①②	A		
			少人数指導やALT とのTTによるきめ細やかな指導を行う。①②⑥	A		
	家庭	主体的学習態度の育成を図り、基本的な生活力の向上を図る。	基礎・基本的知識や技能を身に付け、実生活に生かすための実習など体験的授業の充実を図る。①②	B	B	授業で学んだ知識を実生活に活かせるように実習やグループ活動などを充実させていきたい。
			自らの生活に関心を持ち主体的に営む力を養うため、授業内容の充実を図る。①②③	B		
	情報	情報における思考力・判断力・表現力を高める。	授業時数の2分の1以上を実習に配当することで、生徒の学習意欲を引き出し、「個別最適な学び」と「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組むことで、IT 技術者に求められる論理的思考力とプレゼンテーション能力を育成する。①②③	C	C	新しく始まった科目が多く、生徒の実態に即した授業内容になるようにと試行錯誤しな

		クラウドサービスを積極的に活用し I T 人財として必要な知識と技術を生徒に修得させる。	N 予備校、tokuMo、paiza ラーニングなどのクラウドサービスを積極的かつ効果的に活用し、自律的な学習を生徒に促すことで、I T 人財として必要な知識や技術を修得させる。④	B		がらの学習指導となった。来年度は更にブラッシュアップし、内容をより充実させる。
教務	三修・四修、選択科目・コース等の選択決定が円滑に進めるような支援を講ずる。	卒業後の希望進路実現を目指し、卒業までの学習期間（三修または四修）、選択科目及びコース、決定に関する履修指導を策定し、早い時期に生徒へ提示し十分な検討を経て正しい選択ができるよう支援をする。②⑧		B	A	卒業までの履修指導についての流れや留意点、校務支援システムの十分な活用方法について確立することができた。今後はより円滑な活用ができるよう教職員への周知を図りたい。 P T A についてはどの専門委員会も円滑な活動を実施することができた。今後 P T A 会員の増加が見込まれることから、P T A の運営方法について今後検討が必要である。
	情報関係の環境整備の充実を図る	パソコン、端末、電子黒板等の情報機器の整備充実を図るとともに、維持及び適切な管理に努める。⑭		B		
	効率的な業務推進を図る	校務支援システムの機能を十分に活用し、効率的な業務の確立を図る。⑫		A		
	教育活動の広報に努め、魅力アピールを図る。	学校 Web ページを定期的に更新して本校の取組みや学校行事等を伝えとともに、中学生を対象とした SNS による広報の充実を図り、本校への関心を高めさせる。⑬		B		
	図書館の充実を図る。	新着図書・優良図書の紹介をするなどして読書に対する関心を高めとともに、生徒が利用しやすい図書館となるよう、環境の整備充実を図る。②		A		
	P T A 活動の活性化、特別活動後援会との連携を図る。	運営委員会・総会を通して保護者との連携を深め P T A 活動の参加率向上を図るとともに、開かれた学校づくりに努める。 特別活動後援会による支援を依頼して本校の活性化を推進する。⑮		A		
生徒指導	基本的生活習慣・規範意識の確立及び道徳心の涵養に努める。	生徒の身だしなみに関する意識を高め、あいさつをする習慣を身につけさせる。⑨		A	A	各種講話に関して、外部講師を招聘しての講話を実施することができた。次年度においても外部講師を招き講話を実施したい。 生活調査といじめ防止対策会議を計画的に実施することができた。また、いじめ疑い事案が発生した際には、マニュアルに従い、迅速に対応することができた。次年度も継続していじめ対応に取り組むたい。
		生徒会や生活委員会等との連携し、朝のあいさつ運動など自助活動の活性化を図る。生徒の柔軟な発想で、生徒自らによる道徳心・規範意識の涵養に結びつける。⑨				
	問題行動の未然防止及び特別支援教育の充実	薬物乱用防止教室、性に関する講演会、交通安全講話、各種講話を実施し、生徒の規範意識向上に努める。⑨		A		
		各部及び年次との連携をより密にし、情報の共有化を積極的に図ることで、問題行動の未然防止・早期発見・早期解決が可能な組織作りを進める。⑨				
		HR・年次・始業式や終業式などでの講話や日常的な生活指導を行う中で、生徒の問題行動の未然防止に努める。⑨				
		特別な支援が必要な生徒への対応・配慮に努め、家庭や専門機関等とも連携・協力を図る。⑨				
	いじめの未然防止・早期発見・早期解消を図る。	スクールカウンセラー派遣事業を活用し、専門的な教育相談の充実を図る。スクールカウンセラーについては通年配置を実現し、きめの細かい指導態勢を構築する。⑪		A		
		定期的に行われる個人面談や生活（いじめ被害）調査、いじめ防止等対策会議を通じて、いじめの被害の有無を早期に確認する。生活（いじめ被害）調査は定期に ICT を活用し実施する。⑪				
		いじめの連絡や相談を受けた場合は、速やかに対処し、解消につなげる。⑪				
		いじめの未然防止を図るため、ホームルームや学校行事、授業等を通して自己有用感や他				

		者を思いやる心を育成する。⑪			
	生徒が主体となって各種行事を行えるようにする	各種行事を実施するにあたり、生徒が主体となった活動を行うため、生徒会と各クラス・教職員が連携し、学校全体で情報を共有しながら計画・実施を行う。⑩	A		
		良好な人間関係を築く力や社会に参画する態度を育成するため、生徒相互間における協働的な活動を増やし、学校行事の充実を図る。⑩	A		
	委員会活動と学校行事の連携を模索し、生徒の活動を援助する。	委員会活動の活性化を図るため、学校行事における委員会の係分担を作成・計画し、生徒主体の委員会活動、学校行事の運営・活性化につなげられるよう援助する。⑩	A		
		学校 Web ページ等を中心とした校外への広報活動を進める。⑬	C		
進路指導	キャリア教育の充実と進路決定に主体的に取り組む態度の育成	外部人材による出前講座、大学や企業等との連携事業を通し、進路意識を高める。⑦⑧	A	B	・出前授業やインターンシップなど外部との連携事業により、特に情報系の進路意識の高揚につなげることができた。 ・ I T 科ならではのキャリア計画の改築を進めていきたい。 ・課外授業、外部模試を適時効果的に行うことができた。 ・年次と連携し、学力向上に向けた日常での状況把握をより緻密に行っていききたい。 ・多くの学校や企業と協力することができ、満足できる進路開拓を行うことができた。
		卒業後の進路を見通したキャリア教育の全体計画を構築する。⑦	B		
		自己の変容や成長に気付き進路選択に繋がるよう、キャリアパスポートを活用する。⑦	B		
	学力向上と学習環境の充実	スタディサポートや面談を通して個々の学習状況を把握し、情報共有することで個別最適な学びにつなげる。①④	B		
		学校全体での学習習慣の定着を図るため、課外授業の実施計画等も含めた学力向上環境の充実に努める。③⑤	B		
	情報の収集や提供の充実	懇談会や企業訪問、学校パンフレットの送付などを通して、上級学校や企業へ学校情報や特色について情報提供し、進路開拓、求人開拓に努める。⑦⑧	A		
学校健康 (保健厚生)	学校保健・学校安全の充実に努める。	校内の安全点検を実施するとともに学校施設・整備の安全対策を強化し、安心・安全な学校生活を送れるように配慮する。⑨	A	A	・学校施設・整備の安全対策を引き続き強化する。 ・健康診断は、スムーズにできた。教職員のストレスチェックは、健康管理医と連携し、引き続き継続していききたい。 ・清掃については、教員数の関係で全ての分担区に配置することが困難であった。特に、ゴミの分別については対策が必要である。 ・防災訓練は、消防署の協力に
	生徒・教職員の健康の保持増進に努める。	健康診断の結果に基づき、生徒の健康状態を把握し、治療が必要な場合は、学年との連携を図りスムーズにできるように配慮する。保健室に来る生徒には、養護教諭が対応するとともに、基本的生活習慣の確立を図る。教職員については、健康診断等の受診に積極的働きかけ健康保持に努める。	A		
	清掃を積極的に実施し、環境美化に努める。	清掃用具の交換及び点検を実施し、日常は、ゴミのない清潔な環境美化に務める。また、校内環境の点検を行うことにより、速やかに改善できるように配慮する。	B		
	防災意識の充実を図る。	防災訓練を 2 回実施し、火災やその他の災害における被害を最小限にとどめ危険予測や危険回避する能力を養う。特に、防災マニュアルを作成し、防災時の対応の指針を作成する。	A		

					より2回実施し、効果的な訓練ができた。危機管理の把握が必要である。
1 年次	基本的生活習慣の確立と豊かな心の育成を図る。	学校生活全体をととして挨拶の励行、時間や期日厳守等の基本的生活習慣の重要性を意識させ、将来、社会人として生活していくための習慣の確立をはかる。⑨	A	A	・学校生活の各場面で生徒が主体的に行動するように指導することができた。特に、文化祭や学年行事などでその様な取り組みが顕著に見られた。次年度も見守り伸ばしていきたい。 ・キャリア教育に関しては、外部講師や校外学習をととして様々な知見を深めることができた。2 年次では、各個人ごとに深化させたキャリア教育を行っていききたい。 ・学習指導では生徒が主体的に学習できるようクラウドサービス等の活用を促した。次年度は進路に応じた自主学習のスタイルを確立させたい。 ・教員、生徒間で連携のとれた円滑な年次運営を行うことができた。いじめの早期発見と未然防止につながった。
		ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、並びに課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、生徒主体の学校づくりを推進する。⑩	A		
	キャリア教育の充実と進路選択における可能性の拡充を図る。	「切り拓け未来」プロジェクト及び各種進路関係行事に積極的に取り組み、卒業後の進路を見通したキャリア教育を充実させる。⑦	B		
		外部人材による出前講座、大学、企業、地域等との連携事業を通し、進路意識を高め、IT 人材として必要な知識と技術を修得させる。⑧	B		
	個に応じた学習・進路指導とそれらにおける自主性の育成を図る。	一人ひとりの学習・進路状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、普段から ICT を能動的にも受動的にも活用した指導の充実に努める。①②④	A		
		積極的に先端的教育ソフトウェアや e ラーニング、クラウドサービスを活用し、授業内外で様々な学習を自主・自立的に行えるように努め、学習習慣の定着を図る。④	B		
	いじめの早期発見と未然防止を図る。	生活調査や生徒面談を通して、いじめの早期発見や未然防止に努める。⑪	A		
2 年次	基本的生活習慣の確立と生徒主体の学校作りの推進を図る。	挨拶の励行、身だしなみ、時間や期限を守るなど基本的生活習慣の重要性を意識させ、将来、社会人として生活していくための習慣の確立をはかる。⑨	B	B	学校行事・生活や課外活動において、積極的・主体的に取り組むことができた。生徒指導部と連携して、いじめ防止を、進路指導部と連携して進路意識付けを促進させることができた。また校外学習やインターンシップをととして様々な知見を深めることができ、強化課外において大学進学希望者に深化させたキャリア教育
		より良い人間関係を築くために、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、並びに課外活動を充実させ、生徒主導で計画・実施ができるような生徒主体の学校づくりを推進する。⑩	A		
	探究的プロジェクト学習を軸としたキャリア教育を充実させる。	「切り拓け未来」プロジェクトに積極的に取り組み、キャリアパスポートの活用や卒業後の進路を見通したキャリア教育を充実させる。⑦	B		
		インターンシップ、外部人材による出前講座、大学、企業、地域等との連携事業を通し、進路意識を高め、IT 人材として必要な知識と技術を修得させる。⑧	A		
	自主的自立的な学習習慣の確立を図る。	積極的に先端的教育ソフトウェアや e ラーニングを活用し、自律的な学習活動を推奨するとともに、個別最適な学びにつなげる。④	B		

		クラウドサービスを活用し、授業内外で様々な学習を自主的に行えるようにし、授業内で生徒が自己表現する活動を心がける。①②④	B		ができた。次年度は卒業学年の生徒も多いため、個に応じた進路実現の支援を強化するとともに社会人としての生活習慣の確立にも注力したい。
	いじめの早期発見と未然防止に努める。	生活調査や生徒面談を通して、いじめの早期発見や未然防止に努める。⑪	A		

※ 評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない